

2014年度 大学院奨励研究員研究報告書

研究科委員長印

印

2015年 3月 27日

関西学院大学学長 殿

奨励研究員

氏名	木原弘恵	印
----	------	---

指導教員

所属・職名	社会学部教授	
氏名	古川彰	印

以下のとおり、報告いたします。

研究課題	離島における地域づくりとそれを支える生活の論理 －瀬戸内海の島を事例として－
採用期間	2014年 4月 1日 ～ 2015年 3月 31日

研究科受付印

教務機構受付印

研究発表状況（奨励研究員採用期間内に発表したものおよび、近く発表予定のもの）

（１）学会誌等への発表（著者、発表論文名、学会誌名、巻号、発表年月、掲載頁等）

雑誌論文	著者名	木原弘恵	論文題目	地域伝統文化をめぐる再編過程の一考察－岡山県笠岡市白石島・踊会の対応を事例に		
	雑誌名	生活文化史	巻号	発行年月	掲載頁	
			67	2015年3月 (予定)	35-47	

雑誌論文	著者名	木原弘恵	論文題目	文化財指定と「担い手」の実践－二つの踊りの来歴をめぐる		
	雑誌名	関西学院大学社会学部紀要	巻号	発行年月	掲載頁	
			121	2015年3月	107-117	

図書	著者名		論文題目			
	書名			発行年月	頁	
					総頁： 担当箇所：	

※論文題目：共著の場合の担当部分のタイトル

（２）学会発表（口頭・ポスター：学会名、開催地、発表論文名、発表年月日等）

学会名	関西社会学会（第65回大会）	開催地	富山大学
題目	高度成長期以降の伝統文化の継承活動の変化とその意義－岡山県笠岡市白石島の白石踊の事例から	発表年月日	2014年5月24日

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

学会名		開催地	
題目		発表年月日	

研究経過状況（3000字程度）

地域開発が行われる際の生活の再編の仕方、これらを瀬戸内海の島という場から考察するために、資源への人びとの働きかけおよび生活の場の組み立て方について検討することが本研究の目的である。

こうした研究目的に取り組むために（1）戦後の瀬戸内海の地域開発を地理的・歴史的に整理し、地域開発が人びとの生活に与えてきた影響を検討、（2）地域開発が行われるなかで瀬戸内海の島で生活を営む人びとの経験を検討、（3）島の社会関係などの仕組みの変化を検討、という3つの課題を立て、現代社会における地域開発の諸相と人びとの生活における実践について考察しようとした。

この課題に取り組むために、（1）については、瀬戸内海一帯の地域開発の歴史的経緯や島々の主要産業に関する文献・資料整理、および人びとの生業の変化などの聞き取り調査、（2）については、人びとの生活経験に関する聞き取り調査や資料調査、（3）については、調査対象地における生活の組み立て方の聞き取り調査と地域のなかの交流の場における参与観察を行った。

本研究に取り組むにあたり、博士論文の執筆を第一の目的に置く奨励研究員として、まず博士論文の内容にかかわる調査を優先することとなった。「島嶼生活における資源利用と共同性—瀬戸内海・白石島の日常実践から」というタイトルにて、人びとの実践に目を向けながら博士論文に取り組んだ。

それゆえ（1）については、戦後の瀬戸内海一帯の地域開発（地域活性化事業を含む）の地理的・歴史的展開の整理は、データベース化するまでには至らなかった。しかしながら、調査対象地での資料収集においては、今後の調査や分析の手がかりとなるような成果も得られた。

本研究の調査対象地は岡山県笠岡市白石島である。この調査対象地での聞き取り調査では、人びとの生活変化に関する話を収集することとなったが、そうした聞き取り調査に関係する（2）と（3）については、博士論文の内容とも調和的であり、これまで蓄積していたデータに加え、あらたな発見もあり、予想以上の成果が得られた。とくに、調査対象地では、地域資源への働きかけに関する興味深い語りを得ることができた。地域資源とは、地域のなかでは多義的なものである一方、外部的な論理によって一元的にも意味づけられるものである。このような性格を持つ資源を人びとがどのように生活の場に取り入れてきたのか、調査で得た結果をもとに考察を行った。

フィールドワークは、月に1-2回の頻度で行った。研究期間の前半は資料収集を中心とし、後半は聞き取り調査や参与観察を主に行った。博士論文の執筆と同時進行で、調査を進めることは一定の制約もあったが、2014年4月から2015年2月まで延べ11回の調査を行なうことができた。

研究発表については、2014年5月に「関西社会学会」（於富山大学）において「高度成長期以降の伝統文化の継承活動の変化とその意義—岡山県笠岡市白石島の白石踊の事例から」というタイトルで発表を行った。これは本研究から得られたデータを含むものである。そのほか、2本の雑誌論文（『生活文化史』、『関西学院大学社会学部紀要』）への掲載が決まった。これらの執筆は少々タイトなスケジュールで行われたが、申請の際の目的は達成した。ただ、データ整理が思うように進まず、投稿論文の執筆が遅れてしまい、そのことが結果的に博士論文の執筆の進捗に大きく影響を与えた。

博士論文は「島嶼生活における資源利用と共同性—瀬戸内海・白石島の日常実践から」というタイトルで提出した。中央集権体制確立以降、地方社会は国家を支え続けてきたが、そこでは人やモノの中央への収奪があり、人びとの生活は外部依存を強めてきた。本論文は、外部に依存しながらも、暮らしのなかで共同性がどのように立ちあがるのかという観点から、地域社会の存続について検討しようとする試みであった。

論文構成は次のとおりである。

【第一章】先行研究整理および研究目的と設定課題の提示、【第二章】瀬戸内海の島という場の位置づけと島の資源やそれへの人びとの働きかけの記述、【第三章】生活変容と地域組織の形成過程の記述、【第四章】島で行われる盆踊りの文化財指定とその「担い手」の実践の考察（『関西学院大学社会学部紀要』掲載）、【第五章】地域伝統文化の継承過程で生じた葛藤への人びとの対応の考察（『生活文化史』掲載）、【第六章】島の資源の生成とその資源が内部／外部の二重に価値づけられる過程、およびそうした展開を可能に

する関係性の考察、【第七章】結論

各章の具体的内容は次のとおりである。

【第一章】では、先行研究の整理と研究目的と課題の設定を行うとともに、調査対象地概要を記述した。【第二章】では、岡山県笠岡市白石島という場所の特性と、その場所に積み重ねられた履歴の記述を行った。【第三章】では、生活条件の変化のなかで起こった地域組織の形成過程、それら地域組織への人びとの関わりかたなどを考察した。【第四章】では、国の文化財にも指定された地域資源を、その「担い手」とされる人びとがどのように経験してきたのか考察した。【第五章】では、白石島の地域資源ともいえる白石踊の継承過程の葛藤への対応をつうじて、外部に価値づけられた踊りに島の人びとがどのように向き合ってきたのか考察した。【第六章】では、あらたに生成しようとする資源への人びとの働きかけを検討し、資源に対する働きかけを可能にしている関係性について論じた。

本論文で明らかにしたことは、資源に働きかける際、人びとは外部の価値づけを受入れるが、それを固定化させることなく生活に生かせるよう資源に働きかけていることであった。また、本論文における事例では多様で多重な資源利用のあり方を確認することができた。経済的利益の追求に関わる資源への働きかけにおいても、その利用の多様性を見いだすことができ、互助的な共同性が見られた。こうした働きかけは資源に働きかける人びとの生活に即したかたちで行われている。すなわち地域再生を論じる際、こうした生活の視点を備えることは有効なことである。

さいごに、大学院奨励研究員という制度によって、落ち着いて研究に取り組む環境を維持でき、今後の研究生活に影響するほどの学びを得た。こうした制度をつくってくださった関西学院大学に心より感謝している。

以上